

# 令和3（2021）年度事業報告

令和3年7月 1日から  
令和4年6月30日まで

## 1 事業の成果

### ○日本1DDMネットワークの3つの約束

インスリンの補充が必須な患者とその家族一人ひとりが希望を持って生きられる社会を実現するために、平成22年度に“救う”“つなぐ”“解決する”の3つの約束を掲げました。

そして、平成23年度に開催した日本1DDMネットワーク法人化10周年・1型糖尿病研究基金設立5周年記念シンポジウム開催を機に、ゴールは、2025年に1型糖尿病を「治らない」病気から「治る」病気にする事としました。

さらに、平成25年度には、インスリン補充から解放され病気になる前のもとの体に戻る「根治」に、現在の治療法の改善により体への負担が軽くなり生活の質が向上する「治療」並びにこれから新しく発症する患者を無くして1型糖尿病を完全に克服する「予防」を加えて、1型糖尿病の「根絶」と定義し、「根絶」を最終目標として掲げました。

また、創立26年を経過し、その間に培ったノウハウを社会に還元し、自発的な市民社会の構築に寄与することを目指しています。

その約束を果たすための令和3年度の主な取り組みは以下のとおりです。

### ○“救う”－患者と家族の皆さんに私たちの経験を還元します。

患者の祖父母や学校・幼稚園等への説明用パンフレット、ジューCグルコース及び1型糖尿病〔1DDM〕お役立ちマニュアル（特に全国の図書館へ）の配布、電話・メール等での相談対応、ホームページやフェイスブック等での情報発信、メールマガジンの配信などに取り組みました。

新型コロナウイルス感染症の収束が見通せず、引き続き専門医等の協力により、重症化リスクの高い患者・家族のために情報提供、啓発を行いました。

相談対応については、AI（人工知能）を活用したシステム完成が遅れていますので、理事長をトップに開発会社との詰めを急いでいます。

政策要望では①介護施設などでの介護職員によるインスリン療法の実施②インスリンポンプ、持続血糖測定器（CGM）に係る診療報酬の改善③学校などの教職員等及び救急救命士による重症低血糖対応④特別児童扶養手当と小児慢性特定疾病の申請窓口の一元化についての要望書を厚生労働省、文部科学省及び内閣府の担当大臣宛に提出しました。この中で、特別児童扶養手当と小児慢性特定疾病の申請窓口の一元化については、2022年4月8日付で厚生労働省から各都道府県・指定都市などに向けて、保健所での小児慢性特定疾病による医療費助成申請時に、特別児童扶養手当などの手当制度について周知するよう通知されました。

20歳以上の1型糖尿病患者への医療費助成については、国会議員、専門医とともに検討を続け、次年度に改めて政策要望を行う予定です。

発症初期の患者と家族にとって必要なもの（専門医監修によるわかりやすい

医療情報冊子、療養に必要な医療機器やインスリン製剤の一覧、患者・家族の体験談等)を詰め込んだ「希望のバッグ」(平成26年11月配布開始)プロジェクトは、スポンサー企業の皆様のおかげで好評のまま継続することができました。1型糖尿病が「治る」病気になるまで継続する必要がありますので、毎年発症している全国の患者全員(2000人を見込)に届けることができるよう今後とも重点事業として取り組んでいきます。

加えて、インスリン補充が必要な2型糖尿病患者のための希望のバッグ(平成29年12月配布開始)の送付もスポンサー企業の皆様のご支援により継続することができました。

当法人が20年以上に渡って蓄積してきた1型糖尿病に関するノウハウを活かし、2型糖尿病患者・家族のみなさんに、インスリン治療に対する不安をやわらげ、希望をもって生活してほしいという思いから「2型糖尿病患者の家族のための糖尿病との向き合い方セミナー」と題したオンラインイベントを開催し、糖尿病の早期診断と治療継続の大切さを啓発しました。

認定特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン様の協力を得て“低血糖アラート犬”育成に取り組み、3頭(アニモ、アロエ、エフィー)の訓練を継続しました。しかしながら、令和2年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響でスウェーデンから講師(スカンディナヴィア・ワーキング・ドッグ研究所のイェシカ・オーベリー氏)が来日できず、認定試験を受けられませんでした。日本初の低血糖アラート候補犬となった2頭(アニモ、アロエ)は、令和4年度末の認定試験に向けて未来の家族と一緒に暮らしながらの実地訓練を継続しています。3頭目のエフィは基礎訓練を完了し、譲渡する患者・家族の募集準備中です。

1型糖尿病患者・家族に社会福祉制度を正しく理解してもらうため、インスリン補充療法をおこなう患者・家族のための医療費セミナーを開催しました。動画では弁護士、社会保険労務士による「就労・運転免許編」「特別児童扶養手当・障害年金編」の販売を開始しました。この動画により、患者・家族が各制度についていつでも学べる機会をつくり、制度の正しい理解と有効に活用する(行政へ正しい知識で意見を述べる)ことで、患者・家族の精神的・経済的負担を軽減することができます。

カーボカウントセミナーと料理レッスンを組み合わせた「まもりんぐ料理教室」を2回開催しました。オンライン開催にもかかわらず参加者のアンケートは高い満足度を示していました。

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、患者・家族が対面で話せるイベントの中止・延期や発症したばかりの患者・家族が他の患者・家族と接する機会がないこと等から、「#にちあいしゃべり場～患者・家族の“話せる”オンラインコミュニティ～」を27回開催しました。それぞれの立場で直面している課題が異なり、年齢別、患者・家族別等タイプ別に回を重ね、参加者からはこのしゃべり場が「心の安定につながる」といった高い評価を得ています。

日本メドトロニック株式会社様と共催で「知ろう!学ぼう!糖尿病キャンプ～糖尿病キャンプ啓発イベント～」をオンラインで開催し、糖尿病キャンプの体験談やキャンプへの想いを医師と患者・家族が語り合いました。コロナ禍の期間に発症した患児は同じ病の子どもに出会っていないこともあり、対面開催のキャンプが熱望されていることなどが改めて分かりました。

日米の医療環境に違いがあるのか？患者としての気持ちは同じなのか？語り合いたい！という声が届き、「日米糖尿病患者対談」を開催し、YouTubeにてLive配信しました。海外の治療や医療費に高い関心が示されました。

患者への大学進学対象給付型奨学金（返還不要）は初めて2名に対し交付しました。

なお、起業支援は株式会社 Langerhans と合意に至らず、該当者はありませんでした。

高齢患者支援サービスは制度設計の準備に留まっています。

## ○ “つなぐ”

－患者・家族と研究者、医療者、企業、行政、そして社会とつなぎます。

カーボカウント&先進デバイス活用セミナーは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりオンライン（WEB形式）で4回（初心者向け、経験者向け、女性限定、医療従事者向けに区分）開催しました。参加者には引き続き好評で、全国各地から多くの医療関係者にも参加いただき、カーボカウントや先進デバイスの啓発に繋がりました。さらに、カーボカウント講座の動画「1型糖尿病 初級編」「1型糖尿病 応用編」及び「2型糖尿病編」も販売することで、確実に医療・療養環境の充実につながっています。

IDDMM白書（1型糖尿病 IDDMMレポート2021）の発行に加え、テレビ、新聞等でも多数取り上げていただき、1型糖尿病の認知度がさらに向上したと認識しています。

昨今は、個々人にあった保険サービスの商品開発が進められてきており、糖尿病患者が加入できる保険も増えてきていますが、持病を理由に保険の加入をあきらめるといった事例が多数あります。よって「糖尿病患者と家族のためのオンライン保険セミナー」を開催し、糖尿病患者が加入できる保険サービスの紹介とファイナンシャルプランナーによる患者・家族のライフプランにあわせた保険の選び方について解説しました。苦手意識のある「保険」に対して一度丁寧に考えてみたいという声もある一方で、糖尿病患者が加入できる保険商品はまだまだ少なく、加入できても年齢制限や保険料が割高である等、患者・家族が期待する状況ではないことを改めて認識しました。

ニチレイマグネット株式会社様、株式会社FAB様、株式会社 Sabevo 様のご協力によりインスリン発見100周年にあわせ、糖尿病をテーマにした「リボンマグネット」デザインを公募し、入賞作品が発売されました。売上の10%が1型糖尿病研究支援に活用されるとともに、1型糖尿病の認知度向上に寄与しています。

企業との協働プロジェクトとして、株式会社SHAREEAT様のクラウドファンディング「#クリスマスにケーキを 1型糖尿病の子どもたちへ年一回のプレゼント」に協力し、患児に低糖質のケーキを届けることができました。株式会社宮田運輸様とは「こどもミュージアムプロジェクト」として、1型糖尿病の子どもたちの夢を描いたミュージアムトラックが大阪・関東間を走っています。1型糖尿病の啓発につながっています。

新たな寄付の形として、DM三井製糖ホールディングス株式会社様は2019年から株主優待制度として自社製品等に代えて日本IDDMMネットワークへの寄付を選択いただける「寄付優待制度」を導入され、この制度を通じて614

名（前年度比49名増）の株主様より1,958,000円の寄付を頂戴しました。

コロナ禍で心身ともに疲弊されている看護職の方々を私達患者・家族が中心になって応援したいという思いと継続的な感染予防への取り組みを呼びかけることも意図してA-portクラウドファンディング「新型コロナウイルス感染症と闘う看護職の方々を応援！」（2021年8月18日より12月15日まで）を財源（613,000円）として新型コロナウイルス感染症の対応されている国立国際医療研究センター（東京都）と福岡大学（福岡県福岡市）の看護職の方々400名へ佐賀の特産物を贈りました。「先が見えない状況に不安や疲れを感じておりましたのでご支援をいただき、本当にうれしかったです」といった感謝の言葉が届きました。

## ○ “解決する”

－研究者の方々に研究費を助成し、1型糖尿病の根治への道を開きます。

1型糖尿病の根絶につながるあらゆる先進的な研究を応援する「1型糖尿病研究基金」による公募型の16回研究費助成は、日本学術振興会による科学研究費助成事業の支援からは外れたものの、1型糖尿病患者・家族の目線で画期的かつ先進的であると強く自負される研究で、若手研究者の方々に強い信念で独創的なチャレンジをしてもらうことを期待して、3テーマに対し300万円の助成を行いました。

佐賀県庁への日本IDDMネットワーク指定ふるさと納税を財源として、8テーマで8442万円の研究費支援を行いました。

資金循環型（研究成果が出た場合は1型糖尿病研究基金へ資金をリターン）の研究支援は、3テーマで継続支援中です。

“冠基金”である「山田和彦1型糖尿病根治基金」を財源にした「第3回山田和彦賞」は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で贈呈式を延期していましたが、松本慎一国立国際医療研究センター膵島移植プロジェクト研究アドバイザーへ日本IDDMネットワーク25周年記念イベント（佐賀市で開催）で授与しました。「2025年にはバイオ人工膵島移植が“成功しました”と報告できるよう本気で頑張っております」と強い決意表明がありました。

このほか、随時募集（公募）による助成、継続助成、出資を含め、本年度は22件1億2000万円（過去最高）の助成を行いました。

これにより累計では、助成件数120件、支援金額6億200万円となりました。

1型糖尿病の根治、治療、予防に向けた研究がさらに進むことを期待しています。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、1年遅れとなりましたが、日本IDDMネットワーク25周年記念イベント—2025年1型糖尿病根治に向けて—&第3回山田和彦賞贈呈式を開催しました。この中で「みんなで成功を祝いたい“治らない”から“治る”をみんなで目指す～今、そして、未来に向けて私たちにできること～」と題したパネルディスカッションを行い、医療者、企業そして患者・家族が一緒になって2025年の1型糖尿病根治を目指すことを確認しました。

2025年には1型糖尿病が“治る”病気になるという期待感が高まっており、「バイオ人工膵島移植ジャパンプロトコール2025基金」（目標：5億

円)を創設し、「移植サポーター」(1口1,000円を毎月口座から自動的に引き落とし)も呼びかけ、2022年6月末時点で110,427,000円となりました。

このうち、4000万円をバイオ人工膵島移植の臨床応用を目指す株式会社ポル・メド・テック(代表取締役:長嶋比呂志氏・三輪玄二郎氏、所在地:神奈川県川崎市)に出資(新株予約権付転換社債の引受)しました。出資による研究支援は初の試みとなります。

『1型糖尿病 2025年「治らない」から「治る」へ』をテーマに据えた日本IDDMネットワークサイエンスフォーラムは、対面とオンラインとのハイブリット方式の開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりオンライン(WEB形式)で2022年6月に開催しました。

これまで研究助成を行った研究機関へ患者・家族が出向き研究の状況を発信する「研究室訪問」は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で依然として再開できず、東京大学ではオンラインで開催し、佐賀大学では研究室からのライブ配信を準備中です。

しかしながら、1型糖尿病を「治る」病気に変えようとしている医療者・研究者や患者・家族との接点を増やすことで、「治る」病気になることへの期待感や研究者のモチベーションは高まっています。

1型糖尿病“根絶”のため、寄付に対し税制優遇措置が受けられる全国初の所轄庁(都道府県・政令市)認定特定非営利活動法人としての利点をいかすために様々なメニュー(基金の名前や金額、助成対象などを自由に決められる、寄付者の方の思いに合ったプログラム“冠基金”、株式会社シャトレゼ様等による販売額の一定割合を寄付する寄付つき商品、家庭や職場で不要になった本を提供していただく“ノーモア注射希望の本プロジェクト”、書き損じ・未使用のはがきを提供していただく“書き損じはがきプロジェクト”、家庭に眠っている貴金属、アクセサリ等を提供していただく“お宝エイド”、売上の一部が寄付になる“希望の自動販売機プロジェクト”等)を用意して寄付のお願いをしました。患者・家族による自発的なチャリティ活動も続いています。

さらに「私にも何か協力できることはありませんか?」「私もなにか1型糖尿病のための活動に参加したい」という声をいただき、本年度は“希望の募金箱”プロジェクトを開始し、10か所で1型糖尿病の啓発にも繋がる専用の募金箱を設置していただきました。

こうした多彩なメニューによる取り組みもあり、本年度の1型糖尿病研究金には102,353,597円(佐賀県庁へのふるさと納税を除く)がよせられました(前年度比2.96倍)。

様々な寄付メニューの中でも、ノーモア注射マンスリーサポーター(1口1,000円を毎月口座から自動的に引き落とし)は、「マンスリーサポーター募集キャンペーン(2022年1月30日~3月31日)」にも取り組み、期間中の40名もの方々に申込まいただき、621名(前年度比120名増)1681口となりました。

患者・家族の遺産を託され2つの冠基金「由地敏廣 エンジョイ!基金」「金岩信一基金」を創設しました。研究支援に活用いたします。

バレンタインデーとホワイトデーに合わせて砂糖不使用で低GIの「ドクタ

ーズチョコレート」(販売元：株式会社マザーレンカ様)の売上の1%を1型糖尿病研究基金へ寄付するキャンペーンを2022年1月11日から3月31日まで、大賀薬局様(74店舗)、I&H株式会社様・阪神調剤薬局グループ様(263店舗)及びアポクリート株式会社様(72店舗)のご協力により実施いたしました。

ソフトバンク株式会社様には「つながる募金」(スマートフォン等から簡単に寄付ができるサービス)並びに「チャリティモバイル」(専用WEBから対象機種を新規または機種変更で契約いただくと、ソフトバンク株式会社様が、6,000円+毎月の利用料金の3%を当法人へ2年間に寄付)でご支援をいただいておりますが、期待に応えられる実績はあがっていません。

ヤフー株式会社様には、Yahoo!ネット募金でご協力をいただき、6月末の累計で約27500名の方々から約760万円の寄付を頂戴しています。

佐賀県とふるさと納税ポータルサイト「ふるさとチョイス」(株式会社トラストバンク運営)のご協力で、本年度で8年目となる「日本IDDMネットワーク」を指定した佐賀県庁へのふるさと納税(寄付)は、令和3年度(佐賀県庁の会計年度：4月-3月)は2390件、90,641,332円と、前年度金額比8.9%増となりました。令和3年度(同4月-3月)は、6月末現在で267件、11,295,864円の指定寄付を頂戴しており、寄付額は前年同期比45%減とたいへん厳しい状況になっています。寄付額の90%が佐賀県庁から当法人へ寄付される予定です。主に研究費助成のために活用します。

特に「ふるさとチョイス」のガバメントクラウドファンディング(用途を明確にしたふるさと納税型クラウドファンディング)では、「1型糖尿病患者のための遠隔医療システムの開発」のために廣田勇士神戸大学大学院医学研究科糖尿病・内分泌内科学部門准教授へ1000万円、「ヒトiPSC 臍島オルガノイド大量製造工程の構築に向けた臍前駆細胞増幅法の確立」のために谷口英樹東京大学医科学研究所幹細胞治療研究センター教授へ700万円、「異種動物胎仔の体内環境を用いたヒトiPS細胞からの臍臓の作製」のために長船健二京都大学iPS細胞研究所教授へ600万円、「代謝特性を利用した新規臍臓β細胞分化方法の開発」のために白木伸明東京工業大学生命理工学院准教授へ500万円、「ヒトiPS細胞を用いた臍β細胞分化における脂肪酸代謝の重要性解明と1型糖尿病再生医療への応用」のために佐々木周伍大阪大学大学院医学系研究科内分泌・代謝内科学糖尿病病態医療学特任研究員へ200万円、

「ウイルス糖尿病予防ワクチン開発」のために永淵正法佐賀大学医学部肝臓・糖尿病・内分泌内科特任教授・九州大学名誉教授へ1700万円の研究費助成を実現することができました。

今後の研究進展に益々期待しています。

ふるさと納税にあたっては、たくさんの応援メッセージを頂戴しています。1型糖尿病のことをご存知無い方々からの寄付も多く、この研究支援寄付が1型糖尿病の啓発にも大きく寄与しています。令和4年6月からは、2025年の1型糖尿病根治実現に向けて一番期待するバイオ人工臍島移植研究をさらに支援するために「ふるさとチョイス」のガバメントクラウドファンディングに取り組んでいます。

なお、第10回大阪マラソンのチャリティ寄付先団体に選ばれましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で残念ながらチャリティランナーの出走は

令和3年も中止となりました。

平成23年1月に発足した『1型糖尿病「治らない」から「治る」―“不可能を可能にする”―を応援する100人委員会』の委員は139名となりました（本年度2名就任）。ノーベル医学・生理学賞を受賞された京都大学iPS細胞研究所名誉所長の山中伸弥氏をはじめ、作家・映画監督の村上龍氏、京都大学名誉教授の西川伸一氏、大阪大学免疫学フロンティア研究センター特任教授の坂口志文氏ほか様々な分野の方々に“参加”いただいています。加えて『1型糖尿病「治らない」から「治る」―“不可能を可能にする”―を応援する希望の100社委員会』は22企業・団体（本年度就任なし）で、「治る」活動支援等の参加表明をいただいています。

2021年度も、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による対面イベントの中止・延期等により、厳しい状況にありましたが、様々なご支援と職員の頑張りにより何とか乗り越えることができました。

対面型イベントの再開目途はたっていませんが、次年度も、研究支援強化や高齢患者支援サービスの構築等、常に改善を意識して新たなチャレンジも続けます。

また、日本IDDNetworkは平成12年に佐賀県に本部を移転した団体として、地元佐賀県へ貢献することを目指しています。

ふるさと納税を財源として「コロナと戦う医療者への応援基金」を設立し、佐賀県内の新型コロナウイルス感染症治療の中心的医療機関である佐賀県医療センター好生館及び佐賀大学医学部附属病院の看護職の方々へ佐賀県産品を贈り、同時に患者・家族に対し感染予防の徹底を呼びかけることで医療継続及び佐賀県産品事業者支援にも寄与しました。

この他、うれしの温泉“いいところ”ギョッとフェス協賛による1型糖尿病啓発や佐賀未来創造基金の「希少野生生物の保護活動」及び日本レスキュー協会佐賀県支部の「人・動物・社会をつなぐ日本最大級の共生拠点“MORE WAN”」整備への支援を行いました。

次年度以降も、本部所在地である佐賀県への貢献を意識して取り組みます。

管理運営面では、年々業務を拡大・充実させており、業務委託を進めながらも役職員が相当無理をしています。井上理事長は体調面から以前のような状態での業務は困難ですが6月から非常勤の有給役員に就任し、大村専務理事も他業務との兼任もあり体調不良が目立つようになっていきます。事務局は、有給職員12名（フルタイム正職員2名、短時間正職員4名、パートタイマー6名、うち10名は在宅勤務）及び外部委託（2社に委託）による体制としましたが、外部委託は限界に近づいており、常勤役員就任による体制強化が必須です。

徐々に充実した事務局体制になりつつありますが、職員の給与水準は十分とは言えません。少しずつ改善の努力をしていますが新型コロナウイルス感染症拡大の影響もありその目途は立っていません。

このような状況下で、今年度も延60名のボランティアの方々に助けられました。

なお、本部事務所（佐賀市）の異臭事案（2022年3月9日発生）により緊急避難としてTOJIN館（佐賀市）に仮移転し、10月1日の移転を目指して準備中です。

日本IDDMMネットワーク全体としては、収入規模は初めて2億円を超え、患者・家族のみならず一般社会を巻き込んだ共感の輪は広がり、評価も高まりつつあります。

サービス向上、研究支援の加速、財源確保のすべてを成り立たせるために来年度も尽力します。



2 事業実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
ネットワークの拡大・支援					患者及びその家族等	0
ネットワークの拡大・支援	○地域患者・家族会等の下記の事業に対し、後援を行った。 ・つぼみの会 愛知・岐阜: 令和3年度1型糖尿病患者の療養および学校との連携についての教職員向け研修会 ・つぼみの会三重: 2021年度「1型糖尿病 先生方と患者・家族との研修会」 ・岡山小児糖尿病協会(岡山つぼみの会): 第9回 1型糖尿病患者の療養及び学校との連携についての研修会	7月28日 8月19日 8月21日	佐賀市	2人	234人	
情報収集提供・政策提言					患者及びその家族等	10,833
情報収集提供・政策提言	○発症初期の1型糖尿病患者と家族にとって必要な情報を詰め込んだ「希望のバッグ」を周知、配布した。 <バッグに入っているもの> ・専門医による医療情報冊子「1型糖尿病とその治療について最初を知ってみたいこと」 ・療養に必要な医療機器やインスリン製剤の一覧 ・祖父母向けパンフレット ・学校、幼稚園、保育園への説明用パンフレット ・注射器や血糖測定器を入れるポーチ ほか	通年	東京都 安城市 佐賀市 大津町 ほか	12人	2365人	
情報収集提供・政策提言	○インスリン補充を必要とする2型糖尿病患者向けの「希望のバッグ」を周知、配布した。 <バッグに入っているもの> ・専門医がわかりやすく解説したインスリン治療の冊子「『インスリン注射が必要』と言われている2型糖尿病患者さんへ」 ・専門医による医療情報冊子「1型糖尿病とその治療について最初を知ってみたいこと」 ・療養に必要な医療機器やインスリン製剤の一覧 ・注射器や血糖測定器を入れるポーチ ほか	通年	東京都 安城市 佐賀市 大津町 ほか	12人	360人	
情報収集提供・政策提言	○以下の政策実現に向けて、所管大臣への要望や関係者との意見交換等を行った。 ・インスリンポンプ、持続血糖測定器に係る診療報酬についての要望 ・介護施設などでの介護職員によるインスリン療法の実施についての要望 ・特別児童扶養手当と小児慢性特定疾病の申請窓口の一元化についての要望 ・学校などの教職員等及び救急救命士の重症低血糖対応についての要望 ・20歳以上の1型糖尿病患者への医療費助成	通年	安城市 佐賀市 大津町 ほか	4人	60万人	
情報収集提供・政策提言	○1型糖尿病患者の祖父母向けパンフレットを10,000部増刷し、患者・家族等へ配布した。	通年	横浜市 佐賀市 大津町	6人	9万人	
情報収集提供・政策提言	○学校、幼稚園、保育園への説明用パンフレット「学校、幼稚園、保育園、認定こども園の先生のための1型糖尿病対応マニュアル」を9,000部増刷し、患者・家族等へ配布した。	通年	横浜市 佐賀市 大津町	6人	9万人	
情報収集提供・政策提言	○2型糖尿病患者の祖父母向けパンフレットを6,500部増刷し、患者・家族等へ配布した。	通年	横浜市 佐賀市 大津町	6人	3.5万人	
情報収集提供・政策提言	○教師のための2型糖尿病対応マニュアルを7,000部増刷し、患者・家族等へ配布した。	通年	横浜市 佐賀市 大津町	6人	3.5万人	
情報収集提供・政策提言	○カバヤ食品(株)様から提供いただいたブドウ糖(グルコース)を主成分とした手軽な糖分補給が可能なタブレット「ジューCグルコース」を患者・家族等へ配布した。	通年	佐賀市 ほか	4人	60万人	
情報収集提供・政策提言	○オウンドメディア『PRESS IDDM』で糖尿病に関する様々な情報発信を行った。	通年	船橋市 福岡市 熊本市 大津町	5人	60万人	
情報収集提供・政策提言	○Twitterで1型糖尿病に関する情報発信を行い、1,081,894人(前年度比41%減)のリーチがあった。	通年	船橋市 我孫子市 横浜市 水見市 福岡市 熊本市 大津町	9人	60万人	
情報収集提供・政策提言	○Facebookで1型糖尿病に関する情報発信を行い、45,199人(前年度比87%減)のリーチがあった。	通年	船橋市 我孫子市 横浜市 水見市 福岡市 熊本市 大津町	9人	60万人	
情報収集提供・政策提言	○Instagramで1型糖尿病に関する情報発信を行い、76,276人(前年度比30%増)のリーチがあった。	通年	船橋市 我孫子市 横浜市 水見市 福岡市 熊本市 大津町	9人	60万人	
情報収集提供・政策提言	○糖尿病専門医6名の監修により、新型コロナウイルスに関する情報を発信した。	通年	船橋市 大津町 ほか	3人	2000万人	
情報収集提供・政策提言	○カーボカウント講座の動画教材を3種類(①1型糖尿病 初級編②1型糖尿病 応用編③2型糖尿病編)販売した。 講師: 川村智行 大阪市立大学医学部附属病院 小児科新生児科講師	通年	福岡市 熊本市 大津町	3人	60万人	
情報収集提供・政策提言	○「#にちあいしゃべり場〜患者・家族の”話せる”オンラインコミュニティ〜」を患者、家族、年齢別に27回開催した。	通年	船橋市 大津町 ほか	5人	119人	
情報収集提供・政策提言	○全国各地の企業、大学、イベント等で、大村詠一専務理事が1型糖尿病に関する講演、対談、動画出演等を10回行った。	通年	全国各地	3人	60万人	
情報収集提供・政策提言	○糖尿病患者と家族のためのオンライン保険セミナーを開催した。	7月10日	福岡市	10人	111人	

2 事業実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
情報収集提供・政策提言	○「知ろう！学ぼう！糖尿病キャンプ～糖尿病キャンプ啓発イベント～」をオンラインで開催し、参加した患者・家族の体験談が「ORICON NEWS」「毎日新聞」等36のWEB媒体に掲載された。	7月17日	船橋市 福岡市 佐賀市 熊本市 大津町	10人	113人	
情報収集提供・政策提言	○インスリンポンプを装着しての搭乗が認められなかった格安航空会社(LCC)に説明を行い、機内モードを活用することで搭乗が認められた。	8月13日	大津町	1人	60万人	
情報収集提供・政策提言	○「障害児手当、支給に地域差 自治体間で異なる説明」(神戸新聞、愛媛新聞、東奥日報、佐賀新聞、沖縄タイムス等に掲載)記事の中で、井上龍夫理事長が「手当の存在が周知されていない」等の問題点を提起した。	9月7日	安城市	1人	60万人	
情報収集提供・政策提言	○「まもりんぐ料理教室～はじめてみよう！カーボカウント～」を日本メトロニック株式会社との共催によりオンラインで2回開催した。	10月9日 3月27日	船橋市 福岡市 佐賀市 熊本市 大津町	12人	120人 59人	
情報収集提供・政策提言	○「1型糖尿病IDDMLレポート2021」を10,000部作成し、ホームページでも公開した。	11月	横浜市 安城市 福岡市 佐賀市 熊本市 大津町	10人	60万人	
情報収集提供・政策提言	○株式会社SHAREEAT様によるクラウドファンディング「#クリスマスにケーキを1型糖尿病の子どもたちへ年一回のプレゼント」に協力し、1型糖尿病患者児87組に超低糖質クリスマスケーキを届けた。	11月～12月	横浜市 福岡市	2人	261人	
情報収集提供・政策提言	○「カーボカウント&先進デバイス活用セミナー」をオンラインで4回(①初心者向け②経験者向け③女性限定④医療従事者向け)開催した。	1月15日 2月5日 3月5日 3月26日	船橋市 横浜市 安城市 福岡市 佐賀市 熊本市 大津町	15人	83人 88人 89人 87人	
情報収集提供・政策提言	○社会保障制度の動画コンテンツ「インスリン療法をおこなう患者・家族のための社会保障制度講座～就労・運転免許編～」(講師:多田祐子社会保険労務士、瀧口徹弁護士) 「インスリン療法をおこなう患者・家族のための社会保障制度講座～特別児童扶養手当・障害年金編～」(多田祐子社会保険労務士)の販売を開始した。	3月15日～	船橋市 横浜市 水見市 安城市 福岡市 宗像市 佐賀市 熊本市 大津町	15人	60万人	
情報収集提供・政策提言	○「聞きたい！知りたい！アメリカではどうしてる？～日米糖尿病患者対談～」をYouTubeでLive配信を行った。	4月2日	船橋市 横浜市 福岡市 宗像市 佐賀市 熊本市 大津町	11人	820人	
情報収集提供・政策提言	○「インスリン療法をおこなう患者・家族のための医療費webセミナー」をオンラインで開催した。	5月14日	船橋市 横浜市 安城市 福岡市 宗像市 佐賀市 熊本市 大津町	14人	55人	
情報収集提供・政策提言	○「2型糖尿病患者の家族のための糖尿病との向き合い方セミナー」をオンラインで開催した。	5月28日	船橋市 横浜市 水見市 安城市 福岡市 宗像市 佐賀市 熊本市 大津町	15人	195人	
情報収集提供・政策提言	○リーフレット『「治らない」から「治る」へ』を6,100部増刷し、患者・家族等へ配布した。	6月	横浜市 大津町	2人	60万人	
調査研究					患者及びその家族等	2,395
調査研究	○認定特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパンと協働し低血糖アラート犬3頭の養成を行った。その資金源確保及び啓発のために、低血糖アラート犬チャリティTシャツの販売を行った。	通年	岡山市 神石高原町 佐賀市 大津町 ほか	4人	60万人	
調査研究	○相談対応等について、AI(人工知能)を活用したシステム開発に取り組んだ。	通年	船橋市 大津町 ほか	5人	60万人	
調査研究	○1型糖尿病患者・家族等に必要情報を網羅した「1型糖尿病[IDDM]お役立ちマニュアル」Part1からPart5(別冊を含む6種類)を配布・販売した。Part1(初級編)、Part2(生活編)は無償配布に移行し、Part4(先端医療編)ともども無償配布を行った。	通年	佐賀市 ほか	6人	60万人	
調査研究	○経済的事由で大学への進学が困難となっている1型糖尿病患者が、1型糖尿病根絶のために研究者、医療者を目指すことを応援するための「1型糖尿病根絶奨学金」による給付型奨学金(返還不要)の募集を行い、2名に奨学金を送った。	通年	安城市 佐賀市 大津町	3人	60万人	
調査研究	○社会的課題の解決という夢の実現に向けて努力している1型糖尿病患者を応援するため「1型糖尿病患者起業支援基金」による起業支援募集を行ったが、採択者は無かった。	通年	佐賀市 大津町 ほか	4人	60万人	

2 事業実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
調査研究	○スタンフォード大学が開発した「セルフマネジメントプログラム」の普及に取り組む特定非営利活動法人日本慢性疾患セルフマネジメント協会への協力をを行った。	11～12月	船橋市 熊本市	2人	60万人	
調査研究	○以下の調査・研究等に協力をを行った。 ・阪本雄一郎佐賀大学医学部附属病院高度救命救急センター長が中心になって取り組む災害時の糖尿病患者支援アプリ作成 ・これからの助成活動に関するWEBアンケート(公益財団法人助成財団センター) ・R3年度難病患者及び慢性疾患児童に関する患者会の実態調査(大阪府) ・認定特定非営利活動法人の活動状況に関するアンケート調査(内閣府) ・臓器移植についてのアンケート(一般社団法人日本難病・疾病団体協議会) ・全国非営利団体のシニア人材へのニーズに関する調査(認定特定非営利活動法人日本NPOセンター) ・非営利組織のガバナンスに関する現状調査(非営利セクターガバナンス拡充プロジェクト)	通年	佐賀市 ほか	8人	60万人	
関係団体との連携					患者及びその家族等	1,536
関係団体との連携	○A-portクラウドファンディングで、「新型コロナウイルス感染症と闘う看護職の方々に応援！」を呼びかけ、朝日新聞、garden journalismに掲載された。 目標：5,000,000円 実績：613,000円 49人からの支援申込あり	8月18日 ～ 12月15日	横浜市 佐賀市 熊本市 大津町	6人	60万人	
関係団体との連携	○佐賀県庁への日本IDDMネットワーク指定ふるさと納税を財源として、佐賀県医療センター好生館で新型コロナウイルス感染症対応をされている看護職の方々(113名)へ「ありがとう」ギフトカタログとして佐賀県産品を贈った。贈呈式(8月27日)が佐賀新聞、47NEWSに掲載された。	8月27日	佐賀市	5人	4000人	
関係団体との連携	○佐賀県庁への日本IDDMネットワーク指定ふるさと納税を財源として、佐賀大学医学部附属病院で新型コロナウイルス感染症対応をされている看護職の方々(110名)へ「ありがとう」ギフトカタログとして佐賀県産品を贈った。贈呈式(9月3日)が読売新聞、佐賀新聞、47NEWSに掲載された。	9月3日	佐賀市	5人	4000人	
関係団体との連携	○A-portクラウドファンディング「新型コロナウイルス感染症と闘う看護職の方々に応援！」を財源として、国立国際医療研究センター及び福岡大学で新型コロナウイルス感染症の対応をされている看護職の方々(400名)に佐賀県産品を贈った。	3月23日	東京都 福岡市	3人	60万人	
普及啓発					患者及びその家族等	5,193
普及啓発	○「僕はまだがんばれるー“不治の病”1型糖尿病患者、大村詠一の挑戦ー」(じゃこめてい出版)を配布・販売した。	通年	佐賀市 ほか	2人	60万人	
普及啓発	○全国各地の企業、イベント等で、大村詠一専務理事が1型糖尿病に関する講演や対談を5回行った。	通年	全国各地	2人	60万人	
普及啓発	○NHK WORLD JAPANに大村詠一副理事長が出演し、コロナ禍での患者の血糖コントロール悪化についての体験談を語った。	7月20日	大津町	2人	60万人	
普及啓発	○インスリン発見100周年を記念し、糖尿病をテーマにした「リボンマグネット」のデザインを募集し、入選作品がリボンデザインオンラインストアで販売された。	8月～	横浜市 福岡市 大津町 ほか	4人	60万人	
普及啓発	○ノボ ノルディスク ファーマ株式会社主催「インスリン発見100周年記念講演会～インスリン治療の過去・現在・未来～」において大村詠一副理事長が座長を務めた。	8月30日	福岡市	1人	60万人	
普及啓発	○阪神タイガース岩田稔投手の引退会見で、井上龍夫理事長のメッセージが紹介された。	10月1日	安城市	1人	60万人	
普及啓発	○「飛び出す！公務員」(学芸出版社)で、岩永幸三副理事長兼事務局長の日本IDDMネットワーク活動が掲載された。	11月5日	佐賀市	1人	60万人	
普及啓発	○下野新聞において、「1型糖尿病で患者会」と題して、「とちぎヤングの会」が掲載され、大村詠一専務理事のコメントが掲載された。	11月14日	大津町	1人	60万人	
普及啓発	○NHK佐賀放送局「ニュースただいま佐賀」に大村詠一専務理事が出演し、コロナ禍での患者・家族への情報発信について取り上げられ、「#にちあいしゃべり場」や新型コロナウイルス感染症の罹患経験のある患者を招いて発信した「#にちあいシェアまつり」が放映された。	12月8日	大津町	1人	60万人	
普及啓発	○ジャーナリスト堀潤氏主宰のYoutubeライブ「月刊A-port presented by #8bitNews #6」に大村専務理事が出演し、A-portクラウドファンディング「新型コロナウイルス感染症と闘う看護職の方々に応援！」についてインタビューを受けた。	12月13日	大津町 ほか	2人	60万人	
普及啓発	○1型糖尿病患者・家族等に必要情報を網羅した「1型糖尿病[IDDM]お役立ちマニュアル」Part1からPart5(別冊を含む6種類)計7,004冊を全国1,500箇所の図書館に寄贈した。	6月	全国各地	4人	60万人	
療育相談					患者及びその家族等	942
療育相談	○電子メール(344件)、SNS(21件)、面談(16件)、相談電話(245件)、ホームページ(721,541件)等を通して、様々な相談等に対応した。	通年	船橋市 安城市 木津川市 佐賀市 大津町 和水町 ほか	9人	60万人	
会報発行					患者及びその家族等	1,773

2 事業実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
会報発行	○会員等への情報提供として、メールマガジンを配信した。	8月13日 9月3日 9月15日 10月28日 12月1日 12月21日 1月5日 2月7日 3月11日 3月23日 4月7日 5月9日 6月9日	船橋市 我孫子市 横浜市 安城市 福岡市 佐賀市 熊本市 大津町	11人	60万人	

2 事業実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
会報発行	○会員等への情報提供として活動報告レポートを9,000部発行、送付した。	6月	横浜市 水見市 安城市 福岡市 宗像市 佐賀市 大津町	7人	60万人	
中間支援					患者及びその家族等	90
中間支援	○これまで培ったノウハウを社会に還元し自発的な市民社会の構築に寄与し、さらには1型糖尿病啓発も兼ねて下記の事業に対し支援を行った。 ・うれしの温泉“いいところ”ギョツとフェス ・佐賀未来創造基金の「希少野生生物の保護活動」 ・日本レスキュー協会佐賀県支部の「人・動物・社会をつなぐ日本最大級の共生拠点“MORE WAN”」整備	通年	佐賀市	3人	4000人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 研究費助成					患者及びその家族等	80,000
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 研究費助成	○1型糖尿病の根絶につながるあらゆる研究を応援する「1型糖尿病研究基金」において通年での研究助成課題募集(随時公募)を行い、下記研究に助成を行った。 ・1型糖尿病に治療効果を示す新規自己免疫調節剤の創出 研究代表者:藤本ゆかり慶應義塾大学理工学部化学科教授 助成額:450万円 ・Diabetes Cure!に向けたβ細胞新生の効率化および低侵襲化 研究代表者:宮塚健北里大学医学部内分泌代謝内科学教授 助成額:500万円 ・FreeStyle!フレ第3世代アルゴリズムの精度評価 研究代表者:村田敬国立病院機構京都医療センター臨床栄養科・糖尿病センター臨床栄養科長・医長 助成額:50万円(佐賀県ふるさと納税含む)	8月18日 12月28日 6月27日	安城市 宗像市 佐賀市 大津町 ほか	6人	60万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 研究費助成	○松本慎一国立国際医療研究センター・藤島移植プロジェクト研究アドバイザー、株式会社ボル・メド・テック取締役に対する第3回山田和彦賞の贈呈式を開催した。 賞金:1000万円	10月17日	佐賀市	11人	60万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 研究費助成	○1型糖尿病の根絶につながるあらゆる研究を応援する「1型糖尿病研究基金」助成対象課題の中で継続助成を希望された研究課題の中から下記の5件へ助成を行った。 ・1型糖尿病を発症しない動物モデルの確立と発症・抑制機序の解明(継続5年目) 研究代表者:宮寺浩子筑波大学医学医療系助教 助成額:100万円 ・GLP-1シグナリングによるT細胞エネルギー誘導効果を介した1型糖尿病の根治療法の開発(継続2年目) 研究代表者:伊藤新慶義塾大学医学部腎臓内分泌代謝内科助教 助成額:100万円(竹原ファミリー基金による助成) ・1型糖尿病に対するIL-7R標的Antibody-drug conjugate(ADC)の開発(継続4年目) 研究代表者:安永正浩国立がん研究センター・先端医療開発センター・新薬開発分野長 助成額:100万円 ・自己反応性T細胞を標的とした1型糖尿病発症予防法の開発(継続2年目) 研究代表者:岡村拓郎京都府立医科大学内分泌代謝内科学病院助教 助成額:100万円(松崎ちづる基金による助成) ・血糖値の変動に応じた機能的インスリン分泌を可能とするAAVベクターの構築と1型糖尿病モデルに対する治療効果の検討-1型糖尿病の根治を目指して-(継続2年目) 研究代表者:菅澤威仁筑波大学医学医療系スポーツ医学研究室助教 助成額:100万円(Sky基金による助成)	12月7日 5月19日 6月27日	安城市 宗像市 佐賀市 大津町	6人	60万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 研究費助成	○佐賀県庁の協力により実施した「日本IDDMネットワーク指定のふるさと納税」による寄付金を財源とし、下記研究に助成を行った。 ・1型糖尿病患者のための遠隔医療システムの開発 研究代表者:廣田勇士神戸大学大学院医学研究科糖尿病・内分泌内科学部門准教授 助成額:1000万円	12月28日	安城市 宗像市 佐賀市 大津町	6人	60万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 研究費助成	○佐賀県庁の協力により実施した「日本IDDMネットワーク指定のふるさと納税」による寄付金を財源としてiPS細胞に関する研究の公募を行い、4件の応募すべてに助成を行った。 ・ヒトiPS細胞臓器オルガノイド大量製造工程の構築に向けた膜前駆細胞増幅法の確立 研究代表者:谷口英樹東京大学医科学研究所幹細胞治療研究センター教授 助成額:700万円 ・異種動物胎仔の体内環境を用いたヒトiPS細胞からの臓器の作製 研究代表者:長船健二京都大学iPS細胞研究所教授 助成額:600万円 ・代謝特性を利用した新規膵臓β細胞分化方法の開発 研究代表者:白木伸明東京工業大学生命理工学院准教授 助成額:500万円 ・ヒトiPS細胞を用いた膵β細胞分化における脂肪酸代謝の重要性解明と1型糖尿病再生医療への応用 研究代表者:佐々木周伍大阪大学大学院医学系研究科内分泌・代謝内科学糖尿病病態医療学特任研究員 助成額:200万円	2月2日 2月21日 3月2日 3月9日	安城市 宗像市 佐賀市 大津町	5人	60万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 研究費助成	○バイオ人工膵島移植の臨床応用を目指す株式会社ボル・メド・テックに4000万円を出資(新株予約権付転換社債の引受)した。	3月18日	安城市 宗像市 佐賀市 大津町	5人	60万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 研究費助成	○研究成果により当該研究機関が対価を得た場合、提供した金額を上限にその研究資金が当法人に還元され、その還元された資金で別の研究機関を支援する「循環型研究資金」として以下の研究に資金提供を行った。 ・レプチン受容体シグナルを介した1型糖尿病の新規治療開発 研究代表者:坂野僚一名古屋大学総合保健体育科学センター准教授 伊藤禎浩名古屋大学医学部附属病院糖尿病・内分泌内科 客員研究者 研究資金:200万円<4期目>(契約に基づく循環型研究資金)	6月10日	安城市 宗像市 佐賀市 大津町	5人	60万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 研究費助成	○研究成果により当該研究機関が対価を得た場合、提供した金額を上限にその研究資金が当法人に還元され、その還元された資金で別の研究機関を支援する「循環型研究資金」として以下の研究に資金提供を行った。 ・ダニ虫体抗原による1型糖尿病の根治治療 研究代表者:中村和北里大学獣医学部特任教授 研究資金:100万円<3期目>(契約に基づく循環型研究資金)	6月10日	安城市 宗像市 佐賀市 大津町	5人	60万人	

2 事業実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1型糖尿病研究基金(特別会計)研究費助成	○1型糖尿病の根絶につながるあらゆる研究を応援する「1型糖尿病研究基金」の第16回研究助成課題の公募を行い、6件の応募の中から下記の3件へ助成を行った。 ・1型糖尿病におけるHybrid Insulin Peptideの免疫学的な意義 研究代表者: 及川洋一埼玉医科大学内分内分泌科・糖尿病内科准教授 助成額: 100万円 ・移植膵島量の非侵襲的縦断的評価に基づく、移植膵島増殖・保護法の開発 研究代表者: 村上隆亮京都大学医学部附属病院 糖尿病・内分泌・栄養内科助教 助成額100万円 ・異種移植用ブタ膵島の機能評価とその改善のための探索的研究 研究代表者: 小須田南日本大学医学部内科学系糖尿病代謝内科学分野助手 助成額: 100万円	6月10日 6月13日 6月27日	安城市 宗像市 佐賀市 大津町	5人	60万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)研究費助成	○佐賀県庁の協力により実施した「日本IDDMネットワーク指定のふるさと納税」による寄付金を財源とし、下記研究に助成を行った。 ・ウイルス糖尿病予防ワクチン開発 研究代表者: 永淵正法佐賀大学医学部肝臓・糖尿病・内分泌内科特任教授、九州大学名誉教授 助成額: 1700万円	6月24日	安城市 宗像市 佐賀市 大津町	5人	60万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)研究費助成	○研究成果により当該研究機関が対価を得た場合、提供した金額を上限にその研究資金が当法人に還元され、その還元された資金で別の研究機関を支援する「循環型研究資金」として以下の研究に資金提供を行った。 ・ゲノム編集技術を用いた自己免疫機能の改変による自然発症1型糖尿病モデルマウスの開発 研究代表者: 谷原史倫自治医科大学医学部先端医療技術開発センター動物資源ラボラトリー准教授 研究資金: 200万円<前職から通算で5期目>(契約に基づく循環型研究資金)	6月27日	安城市 宗像市 佐賀市 大津町	5人	60万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)シンポジウム					患者及びその家族等	348
1型糖尿病研究基金(特別会計)シンポジウム	○創立25周年記念イベントー2025年1型糖尿病根治に向けてー&第3回山田和彦賞贈呈式を開催した。	10月17日	佐賀市	12人	60万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)シンポジウム	○サイエンスフォーラム2022ー根治に向けてのカウントダウン4ーをオンラインで開催した。 【第1部】 ・新たな研究助成テーマの紹介 ・オールジャパンでiPS細胞による根治を加速するー1型糖尿病研究基金助成事業ー ・今受けられる1型糖尿病治療、当院でのクラウド活用について 前田泰孝(南昌江内科クリニック・南糖尿病臨床研究センター長) ・2025年のバイオ人工膵島移植実現に向けてー1型糖尿病研究基金助成事業ー ・低血糖激減プロジェクトー1型糖尿病研究基金助成事業ー 【第2部】 研究者、医師、患者・家族との交流会 ・テーマ1 今受けられる1型糖尿病治療 ・テーマ2 iPS細胞による1型糖尿病根治 ・テーマ3 バイオ人工膵島移植 ・テーマ4 50代以上の患者交流会 ・テーマ5 宗理美さん(患者・大学生・元プロテニスプレイヤー)との交流会 ・テーマ6 治験って何? ・テーマ7 園・学校についてお話ししましょう	6月18日	船橋市 横浜市 水見市 安城市 福岡市 宗像市 佐賀市 熊本市 大津町	16人	224人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報					患者及びその家族等	19,952
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○1型糖尿病「治らない」から「治る」ー“不可能を可能にする”ーを応援する100人委員会の委員が139名となった。 <100人委員会の役割> ・不可能を可能にするこの取り組みを“社会に発信”する。 ・不可能を可能にするこの取り組みの“戦略に助言”する。 ・不可能を可能にするこの取り組みに“参加”し患者と家族に勇気を与える。	通年	安城市 佐賀市 ほか	5人	60万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○1型糖尿病「治らない」から「治る」ー“不可能を可能にする”ーを応援する希望の100社委員会の委員は前年度に引き続き22社・団体であった。各社・団体からは、様々な「治る」活動支援等の参加表明が寄せられている。	通年	佐賀市	1人	60万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○公益財団法人パブリックリソース財団様のご協力により、オンライン寄付サイト「Give One(ギブワン)」で「不治の病“1型糖尿病”の子どもたちを助けたい! 根絶のための研究にご支援をお願いします」と題して、1型糖尿病研究基金への寄付をお願いした。	通年	熊本市	1人	60万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○ヤフー株式会社様のご協力により「Yahoo!ネット募金」で、バイオ人工膵島移植実現に向けて「マクロカプセル化膵島」開発を支援するため「年間1,600回の注射を打ち続けなくてはならない“不治の病”の子どもたちに“治る”希望を」と題して、1型糖尿病研究基金への寄付をお願いした。	通年	福岡市 佐賀市 大津町	3人	60万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○日本IDDMネットワークを指定して佐賀県庁へふるさと納税をしていただいた方々へ、佐賀県の患者家族によるこだわりの品(有田焼、有明海産海苔)、1型糖尿病根絶の取り組みに共感頂いた佐賀の生産・加工業者の方々によるこだわりの品(農産物、伝統工芸品等)をお礼として送付した。	通年	佐賀市 唐津市 伊万里市 武雄市 鹿島市 小城市 嬉野市 神埼市 上峰町 みやき町 玄海町 有田町 白石町 太良町	9人	60万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○「ふるさとチョイス」(株式会社トラストバンク運営)と協働し、佐賀県庁への日本IDDMネットワーク指定のふるさと納税(寄付)で、iPS細胞による1型糖尿病根治を目指す研究への支援を呼びかけた。 目標: 20,000,000円 実績: 24,564,310円 741人からの支援申込あり	〔2月12日〕 ～ 7月31日	船橋市 佐賀市 大津町 ほか	6人	60万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○「ふるさとチョイス」(株式会社トラストバンク運営)と協働し、佐賀県庁への日本IDDMネットワーク指定のふるさと納税(寄付)で、廣田勇士神戸大学大学院医学研究科糖尿病・内分泌内科学部門准教授が中心となって進める通院が困難な状況でも対応可能な医師による新たな1型糖尿病の診療方法開発への支援を呼びかけた。 目標: 10,000,000円 実績: 10,558,000円 297人からの支援申込あり	8月18日 ～ 11月14日	船橋市 佐賀市 大津町 ほか	6人	60万人	

2 事業実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 広報	○「ふるさとチョイス」(株式会社トラストバンク運営)と協働し、佐賀県庁への日本IDDMネットワーク指定のふるさと納税(寄付)で、永淵正法佐賀大学医学部肝臓・糖尿病・内分泌内科特任教授が中心となって進めている1型糖尿病予防ワクチン開発への支援を呼びかけた。 目標: 25, 000, 000円 実績: 18, 582, 136円 585人からの支援申込あり	11月15日 ~ 5月31日	船橋市 佐賀市 大津町 ほか	6人	60万人	

2 事業実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○「ふるさとチョイス」(株式会社トラストバンク運営)と協働し、佐賀県庁への日本IDDMネットワーク指定のふるさと納税(寄付)で、バイオ人工膵島移植による1型糖尿病根治を目指す研究への支援を呼びかけた。 目標: 25,000,000円	6月1日 ～ 8月31日	船橋市 佐賀市 大津町 ほか	6人	60万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○「1型糖尿病患者のための遠隔医療システムの開発」のために、日本IDDMネットワーク指定ふるさと納税による神戸大学への研究助成金1000万円の贈呈式を開催し、神戸新聞、科学新聞で紹介された。	12月28日	横浜市 安城市 大津町 ほか	4人	60万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○「iPS細胞による『1型糖尿病の根治』につながる研究」のために、日本IDDMネットワーク指定ふるさと納税による東京大学医科学研究所、東京工業大学、京都大学iPS細胞研究所、大阪大学への研究助成金総額2000万円の贈呈式を開催し、朝日新聞デジタルで紹介された。	2月24日	横浜市 安城市 福岡市 熊本市 大津町 ほか	6人	60万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○ラジオ関西トピックス「ラジトピ」で、阪神タイガース岩田稔投手の「1型糖尿病研究基金」への寄付、「岩田稔基金」、患者・家族の阪神甲子園球場への招待などの活動が紹介された。	7月6日	福岡市	1人	60万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○遺贈寄付ウィーク2021に参加し、大村詠一専務理事と土田香織事務局員が1型糖尿病根治に向けた研究支援を呼びかけた。	9月11日 ～ 9月17日	横浜市 大津町	2人	60万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○サステナブル・ビジネス・マガジン「alterna(オルタナ)」で、「遺産をNPOに、『遺贈寄付』に想いを託す」と題して、日本IDDMネットワークの取り組みが掲載された。	9月13日	横浜市 佐賀市	2人	60万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○文藝春秋及び週刊文春の遺贈・寄付特集で「1型糖尿病を”治る”病氣へ 子どもに注射器ではなく希望を」と題して支援を呼びかけた。	10月8日 4月28日	横浜市 佐賀市 大津町	3人	60万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○根治方法の一つとして、2025年にバイオ人工膵島移植の実現を目指し「バイオ人工膵島移植ジャパン プロトコール2025基金」(目標: 5億円)を創設した。	10月17日	佐賀市	6人	60万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○「1型糖尿病研究基金」で研究助成を行っている東京大学医科学研究所(山口智之特任准教授)研究室を訪問し、子ども向け理科教室を実施した。また、先端研究について直接研究者から聞くとともに、寄付がどのように研究現場でいかされているのか、東京大学医科学研究所(山口特任准教授)研究室からオンラインで配信した。	10月28日 2月21日	東京都 熊本市 大津町	3人	60万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○上毛新聞で、「糖尿病新薬『イメグリミン』β細胞死なせず保護 群大が解明 治療法開発に期待」と題して、群馬大学白川純教授の研究成果が掲載され、日本IDDMネットワークから支援を受けたことも紹介された。	11月4日	横浜市	1人	60万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○「インスリン補充をしている方とその家族のためのエンディングノート」作成に着手した。	11月～	横浜市 大津町 ほか	4人	60万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○7年目となる全国的な寄付啓発キャンペーン「寄付月間～Giving December～」の賛同パートナーとして、1型糖尿病の”根絶”を目指し歳末寄付を会員ほか関係者へお願いした。	12月	佐賀市 ほか	8人	60万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○1型糖尿病の啓発にも繋がる「希望の募金箱」を作製し、店舗やイベント出展場所等10か所に設置いただいた。	12月～	全国各地	5人	60万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○Monthlyミクスで、大村詠一専務理事がインタビューを受け「人工膵島」の実用化研究をプッシュ」と題した日本IDDMネットワークの取り組みが掲載された。	1月1日	大津町	1人	60万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○メチカルフレンド社「Clinical Study2022年2月号」で「1型糖尿病の絵本 はなちゃんとおはなのおはなし」が紹介された。	1月10日	横浜市 佐賀市	2人	60万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○バレンタインデーとホワイトデーに合わせて「ドクターズチョコレート」(販売元:株式会社マザーレンカ様)の売上の1%を1型糖尿病研究基金へ寄付するキャンペーンを大賀薬局様(74店舗)、I&H株式会社様・阪神調剤薬局グループ様(263店舗)及びアポクリート株式会社様(72店舗)のご協力により実施した。	1月11日 ～ 3月31日	全国各地	5人	60万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○「終活読本ソナエ」で、岩永幸三事務局長がインタビューを受け「寄付で子どもたちが助かる」と題した日本IDDMネットワークの遺贈への取り組みが掲載された。	1月14日	佐賀市	1人	60万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○マンスリーサポーター100名募集キャンペーンを行ったところ、40名の申し込みにつながった。	1月30日 ～ 3月31日	横浜市 福岡市 宗像市 大津町	5人	60万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○第10回大阪マラソン・第77回びわ湖毎日マラソン統合大会一般ランナー部門は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となり、チャリティランナー(日本IDDMネットワークはチャリティ寄付先団体)の出走ができなかった。	2月27日	横浜市 福岡市 佐賀市 大津町	4人	60万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○「READYFOR継続寄付」を活用し「バイオ人工膵島移植」の研究助成のため、継続的に毎月支援いただく「移植サポーター」の募集を開始した。	4月18日～	横浜市 水見市 福岡市 宗像市 佐賀市 大津町	7人	60万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○日本承継寄付協会発行の遺贈寄付情報発信メディア「えんギフト2022」で、「1型糖尿病の根絶へ」と題して支援を呼びかけた。	6月	横浜市 佐賀市	2人	60万人	



2 事業実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	<主な寄付金収入実績>					
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	○毎月定額(1口1,000円)で当研究基金のサポートをいただくノーマ注射マンスリーサポーターから寄付を頂戴した。 サポーター数:621名で1,681口 寄付金額:15,897,000円	通年	全国各地	9人	60万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	○ココ・コーラグループ各社様、(株)伊藤園様、サントリービバレッジサービス(株)様、サントリービバレッジソリューション(株)様、(株)ベネフレックス様、FVジャパン(株)様、(株)TGサポート様、(特非)ジャパン・カインドネス協会様、及び難病・慢性疾患患者支援自動販売機を設置いただいた皆様のご協力により、その飲料売上額の一部が当研究基金へ寄付された。 設置台数:64台 寄付金額:1,509,038円	通年	仙台市 つくば市 下野市 上里町 千葉市 市原市 東京都 新潟市 三条市 柏崎市 燕市 富山市 白山市 福井市 小浜市 鯖江市 越前市 南越前町 おおい町 一宮市 京都市 綾部市 枚方市 門真市 東大阪市 神戸市 三木市 岡山市 福山市 今治市 佐賀市 大分市 肝付町	5人	60万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	○(株)バリューブックス様の協力で家庭や職場に眠っている古本を提供いただく「ノーマ注射～希望の本プロジェクト」により寄付を頂戴した。 冊数:3,103冊 寄付金額:131,551円	通年	全国各地	3人	60万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	○株式会社バリューブックス様及びTMコミュニケーションサービス株式会社様の協力で家庭や職場にある書き損じ・未使用のハガキを提供いただく「書き損じハガキプロジェクト」により寄付を頂戴した。 枚数:9,274枚 寄付金額:462,831円	通年	全国各地	3人	60万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	○TMコミュニケーションサービス株式会社様のご協力で、不用品の買取価格に10%が加えられた金額をいただく「お宝エイド」により寄付を頂戴した。 寄付金額:893,540円(書き損じハガキプロジェクト分を含む)	通年	全国各地	3人	60万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	○ヤフー株式会社様のご協力で、「Yahoo!ネット募金」により寄付を頂戴した。 寄付金額:1,365,648円	通年	全国各地	3人	60万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	○ソフトバンク株式会社様のご協力で、スマートフォン等から寄付できる「つながる募金」により寄付を頂戴した。 寄付金額:689,945円	通年	全国各地	3人	60万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	○第10回大阪マラソン・第77回びわ湖毎日マラソン統合大会一般ランナー部門は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となり、チャリティランナー(日本IDDMネットワークはチャリティ寄付先団体)は出走できなかったが寄付を頂戴した。 寄付金額:402,568円	通年	横浜市 福岡市 佐賀市 大津町	4人	60万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	○「夫は30代で1型糖尿病を急性発症いたしました。その後も病に屈することなく、エネルギーに人生を駆け抜け、エンジョイしてまいりました。この度、不運が重なり帰らぬ人となりましたが、この基金が多くの人が人生をエンジョイする一助となりますよう心から願っております。」として、いただいたご寄付で「由地敏廣 エンジョイ!基金」(金額非公表)を設立した。	3月15日	横浜市 安城市 佐賀市	3人	60万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	○カバヤ食品株式会社様から例年「カバヤ・オハヨーグループ さくらまつり」収益金の一部が寄付されているが、新型コロナウイルス感染症の影響で今年も中止になったにもかかわらず「ジュースCグルコース」を応援する社員の方々のおかげで今年も寄付を頂戴した。 寄付金額:200,000円	4月25日	岡山市	3人	60万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	○「バイオ人工膵島移植の研究推進、実用化のために活用いただき、1日でも早く「根治」の道が開かれることを願っております。」として、いただいたご寄付で「金岩信一基金」(7000万円)を設立した。	6月19日	横浜市 安城市 佐賀市	3人	60万人	

(2) その他の事業 該当なし

(3) その他

○総会:通常総会を2021年8月21日名古屋市で開催

○理事会:

第37回理事会を2021年10月16日佐賀市で開催